



つばさ

唐津市立北波多中学校

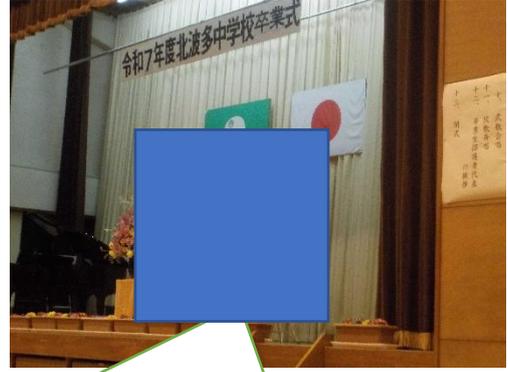
— 令和8年3月9日 —
第23号 文責 校長 渡辺 景輔

〒847-1201 唐津市北波多徳須恵 303

Tel 0955-64-2009

◇ 第79回 北波多中学校卒業証書授与式 ◇

3月6日(金)に、第79回北波多中学校卒業証書授与式を挙りました。思い起こせば、新型コロナウイルスが5類に引き下げられたのが、卒業生が入学した2023年5月8日です。5類となった後も、しばらくは思うような中学校生活を送れなかったことを思い出しました。しかし、そうした状況の中でも、日々歩みを止めず、大きく成長してくれました。これからも北波多中学校の卒業生であることに、自信と誇りを持ち、新天地でのさらなる活躍を期待しています。卒業おめでとうございます。



送辞

まだ、少し冷たさの残る春の風が、旅立ちの季節を告げています。本日、先輩方は新たな場所へと歩みだされます。三年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

先輩方と過ごした時間を振り返ってみると、たくさん思い出が次々と浮かんできます。毎日、一緒に頑張った部活動では、初めてのことばかりでしたが、先輩方の優しく、時には厳しいご指導のおかげで、成長することができました。最後の中体連では、思うような結果を残すことはできませんでしたが、一生懸命に頑張る姿は僕たちのあこがれです。

体育大会では、昨年よりも練習時間がとても短い中、ダンスや舞、下級生の指導、声掛けなど、どれも先輩方の圧倒的なリーダーシップに私たちもその姿に導かれ、ついていこうと強く思いました。仲が良く、チームワークの取れた先輩方の姿から、團結することのすばらしさを改めて学びました。特に印象に残っているのは、踊りがあり得意でなかった私に、先輩方が何度も優しく丁寧に教えてくださったのを鮮明に覚えています。

その他にも、音楽祭や生徒会活動など、どこをとっても先輩方は常に私たちの先を歩む存在でした。そんな頼もしい先輩方とも、いよいよお別れです。これで最後だと思いと、寂しく、心細い思いでいっぱいですが、これまで教えていただいたことを受け継ぎ、みんなで支えあえる素晴らしい学校にしていきます。先輩方はそれぞれの道に進んでいかれます。これからの道は決して楽なことばかりではないと思いますが、北波多中学校で学んだことを胸に、どうか強く歩んでいってください。在校生一同、心より応援しています。卒業される皆様のご健康と益々のご活躍をお祈り申し上げます。別れの言葉とさせていただきます。

令和八年三月六日 在校生代表



答辞

あしひきの 山桜花 日並べて かく咲きたらば いと恋ひめやも

もし山の桜がいつまでも咲き続けているのなら、こんなにも寂しくなることはないだろう。長くは咲かないからこそ、その一瞬の美しさが胸に深く刻まれ、別れの時には、より一層切なくなる。長いようで、過ぎてしまえば瞬く間の三年間。真新しい制服に身を包み入学してきたあの日から、三度目の桜の季節となりました。春の光を背に卒業を迎えた今、たくさんの思い出がよみがえってきます。

入学したばかりの戸惑いが多く静かだった教室も、今では朝から騒がしい場所となりました。課題の提出五分前になると、焦りながらもみんなて必死に答えを探したあの時間。あれは単なる悪あがきではなく、お互いを支え合う、小さな団結力でした。

三年間続けてきた部活動では、試合に勝つことを目標に、仲間とともに厳しい練習を乗り越えてきました。先輩方、顧問の先生、そして保護者の方々の支えもあり、最後の大会まで精いっぱい戦い抜くことができました。つらい練習に心が折れそうな日もありましたが、「頑張ってきてよかった」と笑顔で終えられたことは、大きな自信となり、やり遂げることの大切さを学びました。

協力し合って創り上げた体育大会。例年は九月の開催でしたが、今年度から五月となり、準備期間も短く不安でした。それでもリーダーは、放課後や休日にも集まって、舞やダンスの練習を続け、本番ではどの学年も全力を尽くし、一体感に満ちた体育大会となりました。

平和の尊さを学び、仲間との絆がより深まった修学旅行。知覧特攻平和会館では、戦死された方々の遺書を見て、悲しみとともに心から戦争はいらなと思います。戦争の悲惨さと、平和の尊さを改めて学ぶことができました。宿泊先のホテルでは、みんなで夕食を食べ、みんなで風呂に入りました。みんなで食べるご飯は美味しく、一緒に入る風呂は、なぜかワクワクしました。部屋ではカードゲームをしたり、普段は話せない恋の話で、思わず赤面する人を見て笑ったりしました。みんなで過ごしたあの夜は、いつまでたっても忘れることはないでしょう。

三年間は楽しいことばかりではありませんでした。あれほど早く終わってほしいと思っていた授業も、くだらないことで笑いあった時間も、今思えば、どれもかけがえのない大切な日々でした。毎朝「あと五分だけ」と布団と戦った朝も。友と笑いながら帰った放課後も。朝の「おはよう」は眠そうなのに、別れの「またね」は少し名残惜しい。そんな日々が終わってしまうと思うと、とても寂しいです。

どんな時も優しく、時には厳しく指導してくださいました先生方。いつもそばで支えてくれたお父さん、お母さん。そして、本日まで私たちを応援してくださいましたすべての方々に、心より感謝申し上げます。後輩の皆さん、四月には新入生が入ってきます。どうか胸を張って、憧れられる先輩になってください。

本日は、私たち卒業生のために心温まる式を催していただき、ありがとうございました。この学校で過ごした日々への感謝と、これからの未来への希望を胸に、答辞といたします。



令和八年三月六日 卒業生代表

